

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 藤木 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

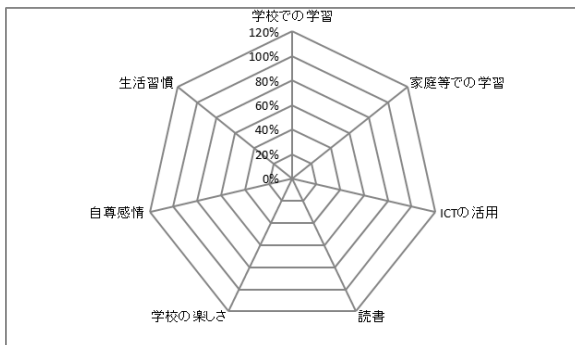
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと」「書くこと」「読むこと」全体的に下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題が全国平均と同等にできていた。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題に課題がある。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に下回るが、特に「変化と関係」の問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる問題は、全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる問題に課題がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に下回るが、特に知識・技能の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	
	努力が必要な問題	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○全体的に全国平均の結果を下回っている。 ・「読書が好き」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っている。 ・家庭学習の時間が、全国より大きく下回っている。 ・1日当たりの携帯電話・スマートフォンやゲーム機を使っているゲームの時間が4時間以上の割合が、全国を大幅に上回っている。家の人と約束したことを守っている割合も全国より低くなっている。 ・「自分には良いところがある」という自尊感情は、昨年より低くなっている。 ○コロナ禍で変化したユーチューブやオンラインゲーム等のSNSに時間を費やす生活リズムが、なかなか元に戻っていないのではないかと

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・朝自習や放課後の時間を使って、国語・算数を中心に基礎基本の定着を図る。 ・算数科に重点を置き、3・5年生を中心に少人数指導体制をとり、きめ細やかな指導を行う。 ・各教科で児童のつまづきを分析的に捉え、基礎的・基本的な知識・技能の定着はもちろん、思考力・判断力・表現力等の育成に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・フィルターの設定や使用時間など、中学校と連携をして携帯・スマホ等の取扱いを児童に啓発する。また、「携帯・スマホ電源10時OFF」など、管理の仕方や約束の内容を家庭・地域に発信し、徹底を図る。 ・家庭学習の定着を図るため、学習方法や自学ノートの参考例、計画の立て方等を児童はもちろん家庭に積極的に発信する。また、「家庭学習チャレンジ週間」を継続・活用し、家庭学習の習慣化を今後も図っていく。 ・国語や朝自習の時間等を活用し、読書習慣の定着を図る。また、学校図書館司書と連携をし、読書の楽しさが味わえる機
